

事後評価報告書

カフラマンマラシュ(トルコ南東部)地震関連「国際緊急共同研究・調査支援プログラム(J-RAPID)」

1. 研究課題名：「カフラマンマラシュ(トルコ南東部)地震関連のデジタルアーカイブ構築支援と活用」

2. 研究代表者名：

日本側： 東北大学 災害科学国際研究所 教授 今村 文彦

トルコ側： 中東工科大学 土木工学科 教授 アハメト・ジェヴデト・ヤルシナー

3. 事後評価結果

(1) 研究成果の評価について

散逸しつつある画像・写真などの災害情報の記録を総合的にアーカイブ化し、WEB上で公開することを目的として、日本における東日本大震災・熊本地震などの実績をもとに、トルコ側と共同でシステム構築などをおこなった。若手研究者を含めたオンラインワークショップにおいては、自然災害以外の災害も含めた資料アーカイブや教育への活用などが議論された。一般市民を含む様々な関係者からの入力によって作成された地震アーカイブシステムは、将来の防災活動への活用や学校現場での防災教育や啓発などに大きく貢献できると思われる。

本緊急共同研究の終了時点では、トルコ政府や関連省庁からの許可や情報提供が遅れているため、2023年カフラマンマラシュ地震についてアーカイブされた情報は限定的であった。今後のコンテンツの充実とともに、トルコにおける災害アーカイブとして成熟し、トルコ側研究者の活動状況や今後の復興へ向けての活用方法などの提示が期待される。

(2) 交流活動の評価について

オンラインワークショップに、日本側・トルコ側の大学院生などの若手も含めた研究者が参加したことは、両国の若い世代による長期的な協力体制の構築につながるという点で高く評価される。また、アーカイブや防災の専門家に加え、メディア・報道・コンサルタント関係者などが参加し、多様な視点でのアーカイブへの期待・課題・要望が整理された。今後、他の災害と同様なアーカイブを構築することにより標準化が期待される。

実際のデジタルアーカイブに関して、その作成に関わる技術移転や、トルコ側における今後の活用方針はやや不明確であり、本研究において日本側研究チームが中心となって得た成果がトルコ側アーカイブとしても成熟し、高く評価されるに至ることが望まれる。

(3) その他

今回構築している災害情報のアーカイブは、地震をはじめとする自然災害と常に隣り合わせの日本

にとっても貴重な情報であるので、より広く広報活動を行い、教訓を共有できるようになることが期待される。

以上